

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	申請大学名	筑波大学
申請大学長名	山田 信博		
プログラム責任者	阿江 通良		

1. 進捗状況概要

- ・プログラムを実現するための大学の規程整備、体制作り、教員組織や入学する学生を支援するサポート体制の構築が、短期間の内に確実に進められていることを確認できた。また、採択後、教員の意識改革にも早くから取り組んでいた。
- ・平成 24 年 4 月の入学生は 8 名（うち、留学生 4 名）であるが、秋入学に 10 名が予定されており、学生の獲得状況及び優秀な学生を獲得するための海外連携校への説明、海外での入試の実施など、積極的な取組が示された。
- ・プログラム履修生からの意見聴取の結果から、本プロジェクトが掲げるヒューマンバイオロジー学位を取得するための充実したカリキュラム、学生への経済的支援、及び海外で研究などができる機会の提供の 3 点が、受験生の志望動機に大きく影響していることが示され、本プロジェクトが現時点では、良好に機能していることが示唆された。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

まだプロジェクトとしてスタートしたばかりであるが、下記の点について、更なる取組が期待される。

- ・単なる研究者としてではなく、リーダーシップ等を発揮できる人材としての学生の成長をモニターし、日常的な指導やカリキュラムの見直しに反映できるような継続したフォローアップ等の取組を充実することが必要である。
- ・教員の意識改革のための FD (Faculty Development)・SD (Staff Development)の継続、ならびに、教員・職員相互のコミュニケーションをより円滑にするための仕組みの構築や風土の醸成が望まれる。同様に、本プロジェクトの枠組みを超えた学生間のコミュニケーションを広げる取り組みについても検討されることが望まれる。
- ・研究倫理・生命倫理教育を学生に根付かせるために、多様な価値観、視点からの議論ができる機会の提供（単なる座学、e ラーニングにとどまらない教育の工夫）が望まれる。
- ・優秀な学生を海外から得るための入学者選抜の経費が突出しており、2 年目以降は、入試の方法・担当組織などについて効率面も考慮した見直しが望まれる。また、初年度は、いわゆる途上国からの入学生が多いが、本プロジェクト担当者として名を連ねている欧米の大学からも学生を獲得するための方策について検討されることが望まれる。